

平成 30 年度からの次期浄水共同研究プロジェクト概要
テーマ：多様な社会・技術に適応した浄水システムに関する研究

1. 研究の背景

現在、大規模水道から簡易水道までそれぞれの地域特有の多様な課題やニーズに適応した浄水システムが求められる時代となった。それら多様な課題やニーズに対して、従来の技術に先進的な要素技術やシステムを融合させることによりスマートな浄水システムに進化させることが必要である。また人材確保と技術レベルの維持向上も重要な課題であり、課題解決のためには技術教育を含めた人材育成システムが必要とされる。

2. 研究項目

(1) 将来を見据えたスマートな浄水システムに関する研究

①先端要素技術・システムに関する研究

水道事業における多様な課題に対して、実際に計画・実施された先進的な要素技術や、維持管理の高度化合理化・アセットマネジメント運用・省力化に有効である O & M ツールを導入した事例などを「事例集」としてまとめる。

②課題解決型先端技術の体系化に関する研究

事業体の規模・形態・地域特性によって多様化した課題に対応した要素技術やシステムを体系的にまとめ、ニーズとシーズのマッチングを図る。

(2) 将来を見据えた官民協業による技術レベルの維持・向上に関する研究

①浄水技術継承支援システムの拡充と検証

浄水技術継承支援システム (*A-Batons+*) は、浄水技術データベース、浄水技術学習プログラム、技術継承評価ツール、及びこれら三者の管理等を行う機能から成り、本システムの更なる拡充と検証作業を通じて、技術継承支援により一層役立てるようなシステムの構築を目指す。

②将来にわたる技術レベルの維持・向上のあり方の検討

人口減少が前提となる中で水道を次世代に継承するためには、官民を問わず水道界が一体となって将来のあり方を考える必要がある。水道事業者の課題、将来のために考えるべきことや民間の提供できる技術、サービスは何かなど、それぞれの現状と可能性を整理し、双方の協業により水道技術の維持・向上が図れる手法、技術、体制などについて検討する。

3. 研究体制

上記 (1)、(2) の研究を実施するため、二つの研究委員会を設置する。上記およびその他の検討項目について、各研究委員会にて討議・研究を進めていく。

なお持ち込み研究は実施しないものとする。

4. 研究期間

研究期間：2018年10月～2021年9月

なお、2021年10月～2022年9月は成果普及活動期間とする。

5. 成果の取りまとめ

研究課題毎に研究内容およびその成果を報告書として取りまとめる。またマニュアル、ガイドライン、手引き、事例集、技術資料などの出版物や、シミュレーターや教育ソフトなど現場活用ツールを作成し、水道事業の発展に寄与するものとする。

6. 参加条件等

(1) 参加資格

①～②の各項に該当すること。

- ① 日本国内において浄水技術に関する研究開発、設計、建設、維持管理に十分な知見及び経験を有する。
- ② 研究期間全般に亘り委員会等に委員を派遣すると共に、研究活動に積極的に参加する。

(2) 協定書の締結

本研究の参加企業は、研究センターとの間で協定書を締結するものとする。

以 上